

# な か ま

福岡県知的障害者施設家族会連合会 会報

発行  
福岡県知的障害者  
施設家族会連合会  
(略称：福施連)

編集  
広報委員会

〒812-0854  
福岡市博多区東月隈  
3-1-4-106  
☎/FAX (092) 503-0579

みんなで読もう 道しるべ

## 『地域共生ホーム』完成

全国知的障害者施設家族会連合会が、一人では生活を営むことが困難な知的障害を持つ我が子らのために、穏やかで快適な暮らしが出来る住まいの実現を目指す参考書として本を出版しました。

現在の障害者支援法でも入所施設利用者の暮らしは一定保障されていることになっていますが、職員数の少なさに輪を掛ける研修制度の不十分さ・低処遇などで、現場での利用者支援体制は、支援法が示す水準以下であることが、全国での数々の事件報道でも明らかです。

きつと出来るよ みんなの力で

実現を目指す歩みを!

この度出版された『地域共生ホーム』は、現在ある入所施設を快適な人間性豊かな支援ある住まいへ改善していく道標として、知的障害者間

題研究者の大学教授や、施設長・家族代表・経験ゆたかな弁護士の方々の執筆による格調高い手引書になっています。

知ることでも生まれる理解と力

この本の出版のために全施連全会員で達成した五百万円資金カンパの

活動もあり、総力を挙げて完成させた『参考書』でもあります。

家族がいる生まれた家よりホッとできる家、仲間や支援員と睦みあえる快適な我が家といえる施設が必要な我が子らの声なき声と家族の願いを、友人知人、市長や議員に、役所の福祉担当者に『地域共生ホーム』の内容の理解を広めましょう。

そのためには家族全員がまず読むこと、研修することが前提です。

「幸せは歩いてこないから・・・」

## 地域共生ホーム

知的障害のある人の  
— これからの住まいと暮らし —

一般社団法人 全国知的障害者施設家族会連合会 編著



中央法規



# 第 15 回全施連全国大会 仙台にて

## 福祉の後退を許さない！～真の共生社会を目指そう～

令和元年 10 月

7・8日、宮城県仙台市のホテルメルパルク仙台で全国的障害者施設家族会連合会の第15回全国大会が開催されました。

会場には加盟県各地から約320名の知的障害者の家族と兵庫県知事および仙台市長、日本知的障がい者福祉協会会長などの来賓を迎えて、大野大会実行委員長代理の開会宣言に続き、由岐全施連理事

長の挨拶から始まりました。

1日目は、東日本大震災復興報告、厚労省障害福祉課課長補佐小林氏の「障害保険福祉施策の動向」と題した行政説明の後、全施連編著「地域共生ホーム」の執筆者でもある埼玉



大学宗澤先生、北九州市立大学小賀先生、全施連副理事長南氏による講演が行われました。小賀先生のコーディネートのもと、宗澤先生からはこの本の構成と要旨についての説明や活用方法について、南氏からは現状の制度上の問題の整理とともに、巻末の「施設の暮らし点検シート」の背景と使い方について説明いただきました。

私たちが知的障害者入所施設の利用者家族は、この本に書かれた内容を熟知し、そして武器にすることので

入所者のより良い暮らしが実現できることを、痛感させられる内容でした。

2日目は午前9時から正午まで「知的障害のある人のこれからの住まいと暮らし」と題する全員参加型討論会が行われました。活発な意見交換が行われるとともに、様々な施設の実情を知ることができ、今後の活動に活かせる討論会となりました。



### 決議文

一、24時間切れ目のない支援で快適に安心・安全に暮らせる障害者支援施設を新設し、グループホームを充実してください。

二、支援の制限に繋がる支援区分は本人に必要な支援が受けられる仕組みに変えて下さい。

三、安定して必要な支援が受けられる支援職員の配置基準の見直しと定員増と職員の処遇改善を急いで下さい。

四、知的障害者の特性を熟知し、福祉職の専門家としての施設職員を育成して下さい。

五、生活保護費以下の障害基礎年金の引き上げ、憲法に保障された公的責任を果たして下さい。

六、障害福祉制度と介護保険制度との一体化・統合には反対します。

七、国及び地方公共団体は、知的障害者への障害福祉サービスを提供する義務を負うこととして下さい。

二〇一九年（令和元年）十月八日  
全国知的障害者施設家族会連合会

# 請願4項目採択 柳川市議会で 6月26日

4月の統一地方選挙終了後、養徳苑近くの初当選議員に面接、全施連請願4項目の説明を行い、委員会にて検討するとのこと賛同を得ました。

その際、団体の署名入りの全会一致採択の請願書と、多数決でも採択可能な議員意見書との違いの説明も行いました。

柳川市には、数年前に一度請願書を提出したこともあり、当選回数が多い議員からは好意的な賛成発言も出ていたとのことでした。

昨年夏に、政党意見交換も行った公明党議員からの質問がされましたが、当方の再説明で委員会での審議も進み、6月26日に全会一致で採択され、私たちの願いが内閣総理大臣・厚生労働大臣・財務大臣に届けられました。

行政対策委員会では今後久留米市議会・八女市議会での請願採択を願

って活動を進め、更に福岡市議会や福岡県議会にも『地域共生ホーム』への理解を広げ、請願書採択の賛同が得られるように願っています。

## 会費値上げ決定と 役員改選

会 総 定 期

5月26日午後1時半からクロアバープラザ506号室で今年度の定期総会が開催されました。

平成30年度の経過報告・決算報告・監査報告が承認され、「福祉連保護者会連合会」を「家族会連合会」への名称変更を確認しました。

また、3回の理事会を経てまとめたい会費値上げを正式に決定しました。規約は、文言の一部訂正や賛助会員資格・権利・連絡責任などを明確にした案文が承認されました。

さらに、令和元年度の運動方針や

重点取り組みも前年度方針を継続して取り組むことで予算案を決定しました。

### ▼改選された役員 (敬称略)

会 長 八木トミエ 養徳苑  
副会長 (行政) 奥昭義 第二田川学園  
副会長 (研修) 横澤直樹 こすもす園  
副会長 (組織) 庄山 祝 蓮の実園

## 施設家族会紹介

### 養 徳 苑

養徳苑家族会は設立43年になり、家族も高齢化して、老人施設入りした親も含めて会員の3分の1になり会の弱体化も深刻ですが、最近兄弟姉妹の自覚が広がりを見せています。

活動は会報を年3回発行、昨年から施設職員との意見交換も年3回行い親睦を深め、問題点の改善に取り組んでいます。

また、苑行事のクリスマス会には費用を分担し、家族ぐるみで苑の手

### 各委員会副委員長

副会長 (広報) 田中勝子 城山学園  
事務局長 (会計) 坂井和市 板屋学園  
行 政 坂井 和市 板屋学園  
研 修 小田部忠夫 個人会員  
広 報 横山 緑 蓮の実団地  
組 織 松木 信子 第二赤坂園  
(新任は横山緑・松木信子両氏)

作り特別料理を会食後、利用者全員参加のゲームや施設が招いた歌手の歌を楽しんだりしています。  
家族会会長は高齢ながら福祉連会長を兼務し、施設利用者の幸せづくりに励む頑張り屋の母親です。

## クリスマスの舞台風景



# 本を手引きに 組織活性化を

連合  
理事

6月13・14日の二日間大阪で開催され、由岐理事長は政府の社会保障政策の厳しい現状を訴えるとともにもうすぐ完成する「地域共生ホーム」の本で学び、販売を広げ、厳しい曲がり角に立っている全施連の活動を強化すべきだと挨拶しました。活動方針は、組織・広報・研修・行政対策の各部を活性化することを確認し、そのためにも必要な会費値上げの来年度実施を目指して検討することも決定しました。

## 全施連九州協議会

### 施設見学も

第13回九州ブロックの会議が7月16日・17日鹿児島市で開催され、沖繩を除く7県施連が集合しました。初日は各県の活動報告を行い、意見交換後、鹿児島市内のあさひが丘学園水理事長の児童・成人施設やグループホームなどへの丁寧な取り

組みを語るミニ講演会がありました。二日目は、情報交換後、あさひが丘学園の送迎バスで施設を見学しましたが、利用者の発達を促す乗馬クラブ、地域住民も度々利用する大ホール、夏休みには鶴丸高校の生徒数十人のボランティア訪問を受けるなど、他施設では聞いたこともない取り組みが実践されていました。地域住民と障害者が共に生きる在り方をこの目で確認し、強い感動を受けました。(八木・奥・庄山出席)

## 令和元年度第一回理事会

### 「地域共生ホーム」の販売促進

9月15日理事会に18施設の出席があり「地域共生ホーム」の完成報告と、販売目標が示されたが、福施連は、注文が既に300冊をこえ、早急に追加発注する事になりました。また、請願採択を求める今後の活動は、久留米市・八女市・福岡市議会です。地区の居住会員の協力が重要です。

## 編集後記

最近三つの施設で起きた利用者の事故死の話を目にして、心穏やかでない思いがしている。

一つは、利用者が就寝後、当直職員が見回った折には呼吸は停止し、脳死状態であったとか。

また、二つの施設では、食事中に喉に食物を詰まらせ窒息死したとのことである。

三つの事件に共通しているのは、たいした問題にもならず過去のことになってしまった点である。

命を救う手段があつたかも知れないと、双方の立場で論じ合うことも失った命に報いることではないかと考えるのは間違いだろうか。

知的障害者の命を軽視する思想を私達家族も奥深く残しているのではないかと突きつけられた気もする。

親同士でよく耳にする言葉は「この子より一日でも長生きしたい」と。願つてはならぬ逆縁を願わず、安心してこの世を去れる福祉を求めて歩き続ける家族でありたい!

(文責 八木)

## 「地域共生ホーム」を読んで

喜ばれて生まれた子供が、周囲の同じ月齢の子供と何かが違うことに気付き、医師から告知される知的障害者の親・家族。きょうだいである私は、手にしたこの本のどこから読もうかと頁をめくり、第6章に読み入りました。過去に、いや現在までもそのきょうだいへの気持ちには、それぞれに内に秘めて生きてきました。65歳の弟を持つ70歳のものです。

姉として、今もなお同じ立場で泣いている仲間がきつと居られる。そう思う時、この第6章を読んでみて、一人で悩むことはないよと。それが「どうしたら良いか」も一歩一歩の段階でわかり、親・きょうだいの暮らしにも、また自分自身の幸福も求めて欲しい。知的障害を持つきょうだいを光に、共に生きていける人生にしたい